

■ 河合塾テキスト「高3 共通テスト対策地理〈2025 2学期〉」演習問題 解説 ■

【第20講（第7講）】

解答番号	正解	解説	重要度
1	⑥	スペイン語：ウ。アメリカ合衆国南西部は、かつてメキシコが領有しており旧宗主国のスペイン語が広まった。フランス語：イ。フランス系の人々は、セントローレンス川沿いから五大湖、ミシシッピ川流域を中心に入植した。ロシア語：ア。アラスカ州はかつてロシアが領有していた。	★★★
2	⑤	タ：M。伝統的な繊維工業が立地するほか、エレクトロニクスハイウェーとよばれる先端技術産業の集積地となっている。ボストンを中心とするニューイングランド地方に該当する。チ：K。メキシコ湾岸油田を背景に石油化学工業が発達する。NASAの基地はヒューストンにある。ツ：L。ア巴拉チア炭田の石炭とメサビの鉄鉱石を五大湖の水運で結びつけ、ピッツバーグやクリーブランドで鉄鋼業が成立し、デトロイトでは自動車工業が発達した。重工業の停滞・衰退にともない、近年はICT産業やバイオテクノロジー産業などへの業種転換も進展している。	★★★
3	③	X：カナダ。最大の輸出相手国はアメリカ合衆国で、輸出総額の約4分の3を占める（2024年）。Y：アメリカ合衆国。他の2か国に比べて経済規模が大きいため、貿易額も大きい。Z：メキシコ。発展途上国であり、輸出品に日用品など軽工業製品が含まれる。	★